

令和6年7月1日

白門40年会 会員各位

白 門 4 0 年 会

会 長 大 泉

清

TEL03-3524-3071 FAX 03-3524-3074

E-Mail hakumon40@gakuinkai.com

暑気払いと泉岳寺巡りのご案内

昨年に続き今夏も猛暑が予想されます。今年も恒例の暑気払いと、同日午前中に史跡めぐりを開催します。JR山手線の新駅「高輪ゲートウェイ駅」で乗車します。奮ってご参加ください。

暑気払いのご案内

昨年のコーリアンダイニング「銀座MUN」は、閉店になりましたので、今年は会場が変更になります（新井嘉昭常任幹事担当）。

◎ 日 時 令和6年8月8日（木）午後1時

◎ 会 場 銀座ライオン 3階和食ホール（個室）

銀座通りの裏側のエレベーター使用

中央区銀座7-9-20（銀座SIXとなり）

TEL03-3571-5607

◎ 会 費 6,000円（飲み放題）

◎ 参加申込 7月31日（水）迄にメールまたはFAXにてお申し込みください

「泉岳寺巡り」

—暑気払い当日午前中—

2020年3月14日山手線に49年ぶりに新駅「高輪ゲートウェイ駅」が開業したことで、泉岳寺が人気の的となり、大勢の外国人も訪れています。

これを機に我々も赤穂義士の墓参に出かけようというのが、今回の企画です。

古谷泰久事務局長にご案内いただきます。

◎ 日 時 令和6年8月8日（木）暑気払いの午前中

◎ 場 所 曹洞宗泉岳寺

港区高輪2-11-1

TEL03-3441-5560

京急・都営浅草線「泉岳寺駅」A2出口より2分

JR山手線「高輪ゲートウェイ駅」より8分

- ◎ 集 合 午前 10 時 30 分
 泉岳寺中門入口
- ◎ 費 用 墓参用線香代 300 円
 資料館入館料 500 円
- ◎ コ ー ス 泉岳寺中門 —— 境内 —— 大石内蔵助銅像 —— 主悦梅 —— 首洗い井戸 ——
 赤穂浪士墓地 —— 赤穂浪士記念館 —— 山手線「高輪ゲートウェイ駅」——
 新橋駅 —— 暑気払会場「銀座ライオン」
- ◎ 参加申込 暑気払い申込と同時に FAX またはメールにて

参加申込書

FAX 03-3524-3074 (事務局)

氏 名 _____

(法・経・商・文・理)

暑気払い (令和6年8月8日 (木)) PM1:00

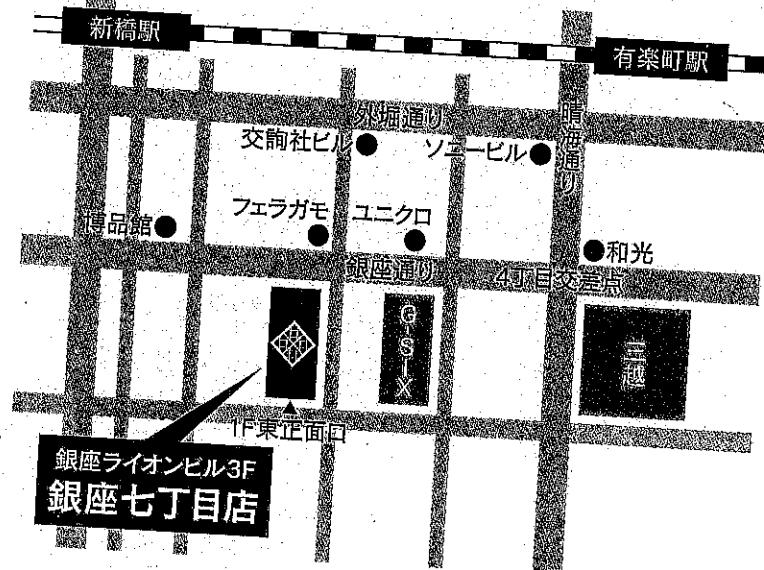
申込締切 令6.7.31 (水)

☐ 参加します (名)

「泉岳寺」 (令和6年8月8日 (木)) AM10:30

申込締切 令6.7.31 (水)

☐ 参加します (名)



和食ビヤホール ますみ

枺々益
JAPANESE BEER HALL MASUMI

銀座七丁目店

〒104-0061 東京都中央区銀座7-9-20 銀座ライオンビル3F

TEL.03-3571-5607

ご予約はこちら



■予約のキャンセルや人数変更についてはキャンセル規定がございます。キャンセル理由に関わらずキャンセル料が発生致しますのでご了承ください。■各種宴会コースは事前予約制となっております。■お席の希望・指定はご遠慮いただいております。■特別個室(10~14名様)は別途室料として10,000円を頂戴しております。■ご予約の席のご利用時間は2時間とさせていただきます。■当日の入荷状況によって予告なく食材が変わる場合がございます。■器、盛付け、料理内容等は一部変更する場合がございます。■飲み放題のラストオーダーは終了20分前とさせていただきます。

○泉岳寺

泉岳寺は曹洞宗の寺院です。

曹洞宗のご本山は二つあり、一つは道元禪師が開かれた福井県の永平寺、もう一つは横浜鶴見の総持寺です。

道元禪師の主旨は仏教の神髄を表した『正法眼蔵』という95巻に渡る書物です。

さて、泉岳寺は慶長17年(1612年)に門庵宗閑(もんなんそうかん)和尚(今川義元の孫)を拜請して徳川家康が外堀田に創立した寺院です。

(現在のホテルオークラの近く)

しかしながら寛永18年(1641年)の寛永の大火によって焼失。そして現在の高輪の地に移転してきました。時の將軍家光が高輪泉岳寺の復興がままならない様子を見て、毛利・浅野・朽木・丹羽・水谷の五大名に命じ、高輪に移転した泉岳寺は出来上がったのです。

浅野家と泉岳寺の付き合いはこの時以来のものです。

一般的には赤穂義士のお墓があることで有名ですが、創建時より七堂伽藍を完備して、諸国の僧侶二百名近くが参学する叢林として、また曹洞宗江戸三か寺ならびに三学寮の一つとして名を馳せていました。

その家風は引き継がれており、人数は少ないものの、大学で仏教を学びつつ泉岳寺で修行を勤めるといふ若い修行僧が、現在もいます。

＜御参拝にあたって＞

【ご本尊さまにお参りしましょう】

当山に限らずお寺にお参りする際には、まずご本尊さまにお参りなさることが大切であります。

昨今、ご本尊さまにお参りしない方をお見かけしますが、まずご本尊さまに手を合わせ心を清めましょう。

【御朱印について】

当山では、帳面をご持参された方にのみ御朱印をお書きしております。一枚の紙での御朱印はございませんので、ご了承ください。

○赤穂事件の概要

播州赤穂藩・浅野内匠頭公は勅使饗応役を幕府から命ぜられました。その役目の上司が吉良上野介です。

浅野内匠頭が接待に関して、吉良上野介に指導を仰いだのですが、種々の嫌がらせを受けたと言われています。

それは、武士の立場を著しく傷つける理不尽なものであったため、ついに元禄14年(1701年)3月14日、浅野内匠頭は江戸城・松の廊下で刃傷に及んだのです。傷は深手ではありましたが命を奪うことは出来ませんでした。これが松の廊下事件と呼ばれるものです。

当時は「喧嘩両成敗」という御定法があったため、浅野・吉良いずれも処罰を受けると思われていたところ、予想に反して赤穂藩は改易。浅野内匠頭は即日切腹。しかも大名という高い位にもかかわらず、庭先での切腹でした。一方の吉良はお咎めなしとなったのです。

赤穂藩の武士たちがこの処罰に納得するはずはなく、処罰の撤回と藩の再興を嘆願しましたが容れられませんでした。

そして家老・大石内蔵助を頭とした47人の武士が、2年近く後の元禄15年(1702年)12月14日に吉良邸に討ち入り、本懐を成就したのです。

本懐成就した赤穂義士たちは、亡き主君に報告すべく、内匠頭が眠る泉岳寺へ吉良の首級を掲げながら向かったのです。

義士たちは逃げ隠れることなく幕府に自分たちの行いを報告し、討ち入りの翌元禄16年(1703年)2月4日に四大名家(細川家・松平家・毛利家・水野家)にて切腹となりました。

この史実である赤穂事件はのちに演劇化され、「忠臣蔵」として今でも多くの日本人の心をつかんで放さないものとなっています。それはこの中に日本人の重んじる「義」や「忠」という精神が買われているからなのです。

萬松山 泉岳寺



＜ご案内＞

〒108-0074 東京都港区高輪2-11-1

TEL: 03-3441-5560

【交通】 品川駅(高輪口)徒歩15分

都営浅草線 泉岳寺駅(A2出口)徒歩3分

【開門時間】

7時～18時(4月～9月)

7時～17時(10月～3月)

(但し、赤穂義士記念館は通年で9時～16時)

①中門

元来、泉岳寺には三門と言って三つの門（総門・中門・山門）がありましたが、現在は中門と山門のみが残っています。

現在の中門は天保7年（1836年）35世大龍庵庭（だいはうばい）和尚代に再建されたもので、昭和7年に大修理を施されています。

「萬松山」の額は、中国明時代の禅僧・為霖道霈（いりんどうはい）による書です。

②大石内蔵助良雄銅像

この銅像は、浪曲の宗家・桃中軒雲右衛門の発願により鑄造されたもので、所有が断々としていましたが、泉岳寺に寄進され、大正10年12月14日に除幕したものです。内蔵助が当時の風俗である元禄羽織を身につけ、連判状を手にして東の空（江戸方面）をじっとにらんでいる姿を表したものです。

③山門

この門は天保3年（1832年）34世大道貞鈞（だいいどういきん）和尚代に再建されたものです。

二階部分には十六羅漢が安置され、一階部分の天井には「江戸三龍」のひとつ、銅彫大幡龍がはめ込まれています。

「泉岳寺」の額は、晋唐の墨跡研究者であった大野約庵による書です。

④本堂

日本堂は第二次世界大戦で空襲にあい焼失。現本堂は昭和28年12月14日に落成した鎌倉様式の建築です。

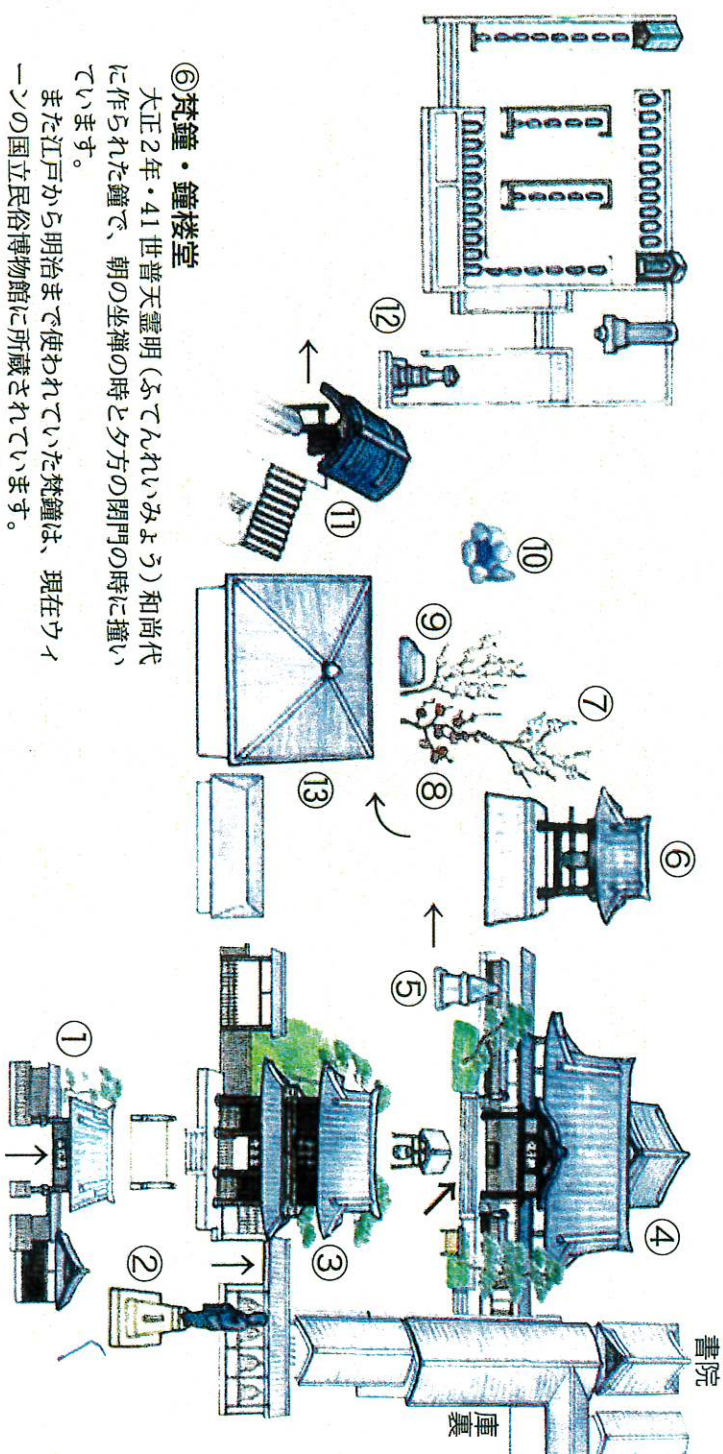
ご本尊は釈迦如来、他に曹洞宗の宗祖である道元禅師・瑩山禅師、また大石内蔵助の守り本尊である摩利支天（秘仏）などが納められています。

本堂では坐禅・読経などの修行が住職をはじめとした修行僧により厳粛に勤められています。

正面に掲げられている「獅子吼」の額は「ししく」と読み、お釈迦様の説法のことを指します。

⑤澤木興道老師像

仏法の究極である坐禅をもって生涯を貫いた20世紀にもしっかりと活躍した禅僧の一人です。



⑥梵鐘・鐘楼堂

大正2年・41世普天靈明（ふてんれいみょう）和尚代に作られた鐘で、朝の坐禅の時と夕方の閉門の時に撞いています。

また江戸から明治まで使われていた梵鐘は、現在ウイーンの国立民俗博物館に所蔵されています。

⑦主税梅

大石主税が切腹した松平隠岐守三田屋敷に植えられていた梅です。

⑧瑤池梅

義士の墓守をした堀部妙海法尼が瑤泉院から賜った鉢植えの梅を移植したものです。

⑨血染の梅、血染の石

浅野内匠頭が田村右京大夫邸の庭先で切腹した際に、その血がかかったと伝えられている梅と石です。

⑩首洗い井戸

義士が本懐成就後、吉良上野介の首級をこの井戸水で洗い、主君の墓前に供え報告したところから「首洗い井戸」と呼ばれています。

⑪義士墓入口の門

この門は浅野家の鉄砲洲上屋敷（現・聖路加病院）の裏門で、明治時代に移築したものです。

⑫赤穂義士墓地

赤穂義士は元禄16年（1703年）2月4日に切腹した後、直ちにこの地に埋葬されました。

ただし間新六の遺体は遺族が引き取っていききました。また寺坂吉右衛門は本懐成就後、瑤泉院など関係者に討ち入りを報告して廻り、のち江戸に戻って自首しました。が赦され、麻布・曹溪寺で83歳の天寿を全うしました。現在も曹溪寺に眠っています。

泉岳寺にある間新六の供養墓は他の義士の墓と一緒に建立されましたが、寺坂の墓は慶応4年（明治元年・1868年）6月に供養のために建てられたものです。

また、いわゆる47士の他に、本人は討ち入りを熱望したものの周囲の反対に遭い討ち入り前に切腹した萱野三平の供養墓があります。（明和4年（1767年）9月建立）したがって泉岳寺の墓碑は48あります。

⑬赤穂義士記念館

討ち入り300年に当たり次の時代に引き継ぐべく、新たに建てられた義士に関する資料館です。

中には義士の貴重な遺品などが納められています。また忠臣蔵についてのビデオも上映しています。